



資本ノ真相(放資原價説)(1)

興梠, 奎太郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 22(5):811-822

(Issue Date)

1917-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052706>



資本ノ真相〔放資原價説〕（其二）

興 梶 奎 太 郎

- 一、資本ノ定義
- 二、資本ト放資
- 三、放資原價
- 四、資本ノ特質
- 五、資本ト利子
- 六、資本ト計理
- 七、諸説短評
- 八、結 論

一 資本ノ定義

余ハ從來ニ於ケル總テノ資本説ヲ否定シ、新ニ資本ノ真相ヲ放資原價ニヨリテ説明セムトスルモノデアアル。若シ讀者ニシテ特ニ余ノ僭越ヲ大目ニ見ラル、ナラバ、説明ノ便宜上余ハ之ヲ放資原價説ト名ケル。本論ニ關シテハ切ニ先輩大家ノ叱正ヲ冀フ。

先ヅ左ニ資本ノ定義ヲ掲ゲ、以下之ヲ各種ノ方面ヨリ討究スルコト、スル。資本トハ放資原價ノ勘定金高デアアル。即チ、資金ヲ收益物ニ放下シテ收益ノ組織ヲ立テタル場合ニ於テ其收益組織ニ對シテ設定スル原價勘定ノ金高ガ資本ト稱セラル、モノデアアル。サレバ資本ハ放資家ヨリ云ヘバ、收益組織ニ對スル貸勘定ヲ意味シ、收益組織ヨリ云ヘバ、放資家ニ對スル借勘定ヲ意味スル。

以下項ヲ分チテ、資本ト放資、放資原價、資本ノ特質、資本ト利子、資本ト計理ニ就イテ説明シ以テ余ノ意味スル所ヲ明ニスルコト、スル。

二 資本ト放資

資本ハ放資ニヨリテ設定セラル、モノデアアル。放資ノ行ハレザル所ニ資本ノ存在スルコトハナイ

然ラバ、放資トハ何デアルカト云ヘバ、之ハ資金ヲ收益物ニ放下シテ收益ノ組織ヲ立テルコトデアル。而シテ茲ニ謂フ所ノ資金トハ個々ノ經濟單位ガ購買ノ餘力トシテ有スル所ノ貨幣及ビ貨幣ノ代用物ヲ意味シ、收益物トハ收益ノ目的ニ供セラル、一切ノ有價物ヲ意味スル。サレバ放資トハ個々ノ經濟單位ガ其購買ノ餘力タル貨幣及ビ貨幣ノ代用物ヲ以テ收益物ヲ購入シ、之ヲ以テ收益ノ組織ヲ立ツルコトヲ意味スルノデアル。

事業放資ト云ヒ、有價證券放資ト云ヒ、或ハ土地建物放資ト云ヒ、貸附放資ト云フガ如ク、放資ニハ種々ナル種類アルモ、併シ如何ナル種類ノ放資ト雖モ資金ヲ收益物ニ放下スル點ニ於テハ同一デアル。勿論資金ハ收益物ノミニ放下サル、モノデハナク、收益物以外ニ支出サル、場合ガ甚ダ多イノハ申ス迄モナイコトデアルガ、併シ斯ル支出ハ放資ト稱セズシテ一般ニ之ヲ消費ト稱スル。

然ルニ茲ニ注意ヲ要スルハ、放資ナル概念ハ從來大多數ノ經濟學者ニヨリテ甚ダシク誤解サレテ居ルコトデアル。即チ從來ノ經濟學者ハ概シテ、放資トハ資本ヲ放下スルコトデアルト説明シテ居ルヤウデアルガ、之ハ大ナル誤デアツテ、放資トハ決シテ資本ヲ放下スルヲ意味スルモノデハナイ資金ヲ放下シテ始メテ資本ハ設定セラル、モノデ、資本其モノハ最早決シテ何物ニモ放下サレ得ベキ性質ノモノデハナイノデアル。尤モ、資本ナルモノガ河上博士ノ意味セラル、如キモノ(大正五年七月發行經濟論叢照)デアルナラバ、資本ノ放下、又ハ資本ノ回收モ可能ノコトデアルガ、併シ河上博士ノ所謂資本ナルモノハ余ノ謂フ所ノ資金ニ該當スベキモノデ、決シテ資本其モノデハナイ。博士ガ『資本ノ放下』、『資本ノ回收』ニ就テ述ベテ居ラレル事ハ、其實、『資金ノ放下』、『資金ノ回收』デアラチバナラヌ。

資本ナル觀念ハ如何ナル場合ト雖モ放資——即チ資金放下——ノ觀念ヲ離レテ成立スル能ハザルモノデアル、勿論、相續、贈與等ニヨリテ無償ニ收益物ヲ取得スル場合モアルガ、併シ、ソレハ單ニ相續者ナリ受贈者ナリガ、自ラ放資ヲ行ツテ取得シタモノデナイト云フダケノコトデ、其收益物ハ嘗テ何人カニヨリテ放資セラレタ性質ノモノデアルカラ、決シテ斯ル事實ヲ以テ資本ノ觀念ハ放資ノ觀念ヲ離レテ成立スルモノデアルト云フコトハ出來ナイ。然ラバ若シモ其收益物が勞働若クハ資金以外ノ所有物ト交換シテ取得セラレタモノデアルナラバ如何デアルカト云フ議論ヲ生ズルカモ知レヌガ、之トテモ、其勞働ナリ所有物ナリガ、其特殊ノ場合ニ資金化シタ結果ニ外ナラヌ。之ハ貨幣ヲ以テ價值ヲ見積ル共通物トスル以上ハ當然ノコトデ、今日苟モ資本ヲ設定スルモノハ其如何ナル場合タルトヲ問ハズ放資原價ヲ算定シナイモノハナイ。即チ縱令自ラ直接資金ヲ放下シテ立テタル收益組織ニアラザル場合ト雖モ、之ニ對シテ資本ヲ設定スルニハ、必ズ其收益組織ヲ立ツルニ要スル資金ノ高ニ還元スルノガ實際ノ事實デモアリ、又理論上ニ於テモ當然ノコト、セラレテ居ル。之レ明カニ資本ノ觀念ガ放資ノ觀念ヲ離レテ成立スルコトノ出來ナイ證據デアル。而シテ資金其モノハ個々ノ經濟單位ガ購買ノ餘力トシテ有スル貨幣及ビ貨幣ノ代用物ヲ意味スルモノデアルカラ、結局、資本ナル觀念ハ貨幣ナル觀念ヲ離レテハ全ク成立スル能ハザルモノデアル。之ヲ以テ未ダ貨幣ノ存在セザル幼稚ナル經濟時代ニ於テハ資本ナル觀念ハ全ク存在スルコトハ出來ナイ。即チ一般財物ノ價值ヲ計數のニ表現スル方法ノ未ダ存在セザル時代ニ於テハ個々ノ收益物ノ組織ハ存在シ得レドモ、資本ト稱スル勘定ハ理論上ヨリ云フモ實際上ヨリ云フモ、全然存在スルヲ得ザルモノデアル

三 放 資 原 價

資本ハ放資原價ノ勘定金高ヲ意味スルノデアルガ、然ラバ放資原價トハ何ゾヤト云ヘバ、之ハ一ノ收益組織ヲ立ツル爲ニ放下シタル資金ノ總高ヲ意味スル。換言スレバ、一ノ收益組織ヲ立ツル爲ニ下ロシタ總テノ資金ノ高——即チ元入高——ガ即チ放資原價ノ高デアル。之ヲ以テ放資原價ノ高ハ全ク勘定上ノ金高デアツテ、決シテ現ニ存在スル資金ノ高デモ、收益物ノ高デモナイノハ明白デアル此放資原價ノ勘定金高ガ即チ資本デアル。

資本ハ放資原價ノ勘定金高デアルカラ、資本ヲ設定スルニハ此所謂放資原價ヲ算定シナクテハナラヌノハ勿論デアル。尤モ或收益物ニ資金ヲ放下シ、其放下ヲ終リタル後ニ放下セル資金ノ總額ヲ計算スルト云フ譯デアルナラバ、之ガ算定ハ何モ殊更ニ問題トスルニ足ラヌノデアルガ、資本ノ設定ハ決シテ斯ル向フ見ズノ方法デ行ハルベキ性質ノモノデハナイ。先ヅ資金ヲ放下スル前ニ、放資原價タルベキ勘定高ハ嚴格ニ算定サレテ居ナクテハナラヌ、此算定ガ其放資ヲ決行スベキヤ否ヤヲ決定スル最モ重大ナル標準トナルノミナラズ、之ガ算定ノ巧拙ハ放資ヲ實行シテ收益組織ヲ立テタル場合ノ收益ノ大小ニ影響スルコト極メテ大ナルモノナルヲ知ラチバナラヌ。即チ冗費ニ滿チタル算定ト、資金能率ヲ高調シタル算定トノ間ニハ收益上大ナル相違ヲ生ズル。近時頻リニ原價ニ關スル問題ガ考究セラル、ニ至リタルハ全ク之ガ爲デアツテ、要スルニ『眞ノ意味ニ於ケル資本』ハ斯ノ如クニシテ未ダ何人モ氣付カザル間ニ著シク内面的ニ充實シ、更ニ著シク外面的ニ發展セムトスルノ機運ニ到達シテ居ルノデアル。

四 資本ノ特質

資本ハ放資原價ノ勘定金高デアルカラ、資本其モノハ過去ニ於ケル事實上ノ放資高ヲ表ハス抽象的ノ勘定デアツテ、現在ニ於ケル資金ノ多少ヤ收益物ノ多少ニヨリテ其額ヲ變動スベキ性質ノモノデハナイ。即チ資本ハ放資家即チ資本家ガ之ヲ撤廢セザル限り一定ノ額ヲ以テ永續スベキ性質ノモノデアル。尤モ普通ノ場合ニ増資若クハ減資ニヨリテ資本ノ高ニ變動ヲ生ズルコトガアルガ、之ハ便宜上勘定ヲ其儘加減スルカラデアツテ、理論上ヨリ云ヘバ、増資ノ場合モ減資ノ場合モ、一應前ノ資本ヲ撤廢シテ、ヨリ大ナル資本若クハ、ヨリ小ナル資本ヲ新設シタモノト見ルノガ正當デアル故ニ資本ハ之ヲ撤廢セザル限り一定ノ額ヲ以テ永續スベキ性質ノモノデ、資本百萬圓ノ會社ハ其資本ヲ撤廢セザル限り常ニ百萬圓ノ資本額ヲ保チテ永續スルノデアル。此點ハ大イニ注意ヲ要スル點デアツテ、從來一般ニ説明セラレタル如キ資本ノ意味ヲ以テシテハ、資金若クハ收益物ノ在高ガ刻刻變動スルニモ拘ラズ資本ノ額ガ定額ヲ以テ永續スル所以ハ如何ニスルモ説明スルヲ得ナイノデアル。

資本ハ斯ノ如ク之ヲ撤廢セザル限り定額ヲ以テ永續スルモノデアルガ、之ハ勿論個々ノ收益組織ニ對スル個々ノ資本ニ就テ云フコトデアツテ、決シテ放資家——即チ資本家——ノ有スル全體ノ資本高ニ就テ云フコトデハナイ。資本ハ個々ノ場合ニ於テコソ、之ヲ撤廢セザル限り定額ニ永續スルノデアルガ、放資家ハ其個々ノ資本ヲ漸次ニ増設シテ其有スル全資本額ヲ累加的ニ増大シ得ルモノデアル。故ニ此意味ニ於テハ資本ハ累加的ノ性質ヲ有スルモノデアルコトヲ知ラチバナラヌ而シテ此

資本ノ累加的性質モ吾人ガ資本ヲ觀察スル上ニ於テ見遁スコトヲ得ザル大切ナル性質デアツテ、又最モ混同シ易キ資本ト資金トヲ區別スル上ニ於テモ極メテ重要ナル性質デアル。即チ資本ハ如何ニ巨額ト雖モ漸次累加的ニ設定シテ積ミ重ナルコトヲ得ル性質ノモノデ、而モ之ヲ積ミ重ヌレバ積ミ重ヌル程、資本家ノ收益ハ益々増加スル性質ノモノデアルカラ、一手ニ何千萬圓、何億圓ト云フ巨額ノ資本ヲ蓄積セル富豪ガ世ノ中ニハ決シテ少クナイ、之ハ資本ガ抽象的ノ勘定ヨリ成ル一種ノ權利デアルト云フコトカラ生ズル當然ノ結果デアツテ資金ニハ到底認ムルコトノ出來ナイ性質デアル即チ資金ニ就テ之ヲ云ヘバ、今日如何ナル富豪ト雖モ、決シテ斯ル巨額ノ資金ヲ積ミ重ナルコトハ出來ナイバカリデハナク、又差當リ必要ナル資金ヲ除ク外ハ、手許ニ之ヲ蓄積スレバ蓄積スル程無收益ニ遊バシテ置ク資金ガ多クナルカラ之ガ所有者ノ計算ハ益々不利トナラナラヌ。ソレ故ニ如何ニ大ナル富豪ト雖モ其手許ニ所有スル資金ノ高ハ僅カナモノデアツテ、其富ノ大部分ハ絶エズ收益ヲ生ミ、而モ何時タリトモ必要ニ應ジテ必要ナ額ノ資金ヲ回收シ得ラル、如キ一種ノ權利ニ化シテ蓄積シテ置クノデアル。換言スレバ、其富ノ大部分ハ資本ニ化シテ蓄積シテ置クノデアル。サレバ我國ノ三井、岩崎ノ富豪ガ何レモ貳億圓以上ノ身代デアルト云ツテモ、決シテ、ソレダケノ資金蓄積シテ居ルト云フ譯ノモノデハナイ。其富ノ大部分ハ資本トシテ積ミ重ナルアルノデアル、又縱令、強イテ斯ル巨額ノ富ヲ總テ資金トシテ蓄積セムトシテモソレハ全然不可能ノコトデアル。何トナレバ、若シモ三井、岩崎ノ二富豪ノミガ、其各々貳億圓以上ノ富ヲ總テ資金トシテ手許ニ蓄積スルコトニスレバ、ソレバカリデ我國ニ於ケル資金ノ流通ハ止マツテ仕舞フカラデアル、況ンヤ全

國ニ於ケル大小總テノ富ヲ有スルモノガ、悉ク資金ノ形ニ於テ其富ヲ所持スルコトニナレバ差當リ貨幣制度ノ存立ナドハ到底夢想ダニスルコトヲ得ナイノハ明白デアル。尤モ資金ハ貨幣ノミヨリ成ルモノデハナク、貨幣ノ代用物モ加ハル譯デアルケレドモ、貨幣ノ代用物中ノ大部分ヲ占ムル信用ハ、ソレガ貨幣ノ代用物タリ得ルハ實際取引ノ上ニ現ハル、場合ニ限ルベキ筈ノモノデアルカラ、斯ル貨幣ノ代用物ハ決シテ蓄積サレ得ベキ性質ノモノデハナイ。之ヲ要スルニ資金ハ徹頭徹尾運轉サルベキ性質ノモノデアツテ、決シテ蓄積サルベキ性質ノモノデハナイ。之レ資本ト資金トガ根本的ニ其性質ヲ異ニスル最モ重要ナル點ノ一デアル。

資本ハ放資源價ノ勘定金高デアツテ、資金其モノトモ、收益物其モノトモ全ク別ノ觀念ノモノデアルコトハ以上述べ來リタル所ニヨリテ明白デアルガ、併シ放資ヲ行フ上ニ於テ、資金、收益物、資本ノ三者ハ如何ナル場合ト雖モ離ルベカラザル。關係ヲ有スルモノデアル。即チ資金ヲ收益物ニ放下スレバ、必ズ其收益物ノ組織ノ上ニ資本ガ設定セラレ、資本ガ設定セラルレバ、必ズ其資本ヲ負フ所ノ收益物ノ組織ガアリ、ソレニ放下サレタル資金ガアル。之ヲ以テ資本ヲ設定スルニハ、資金ヲ收益物ニ放下スルヲ要シ、資金ヲ回收スルニハ、收益物ヲ處分シテ資本ヲ撤廢スルコトヲ要スル。故ニ吾人ハ資本ノ設定ニヨリテ收益ヲ得ルノミナラズ、更ニ何時タリトモ資本ヲ撤廢シテ資金ヲ回收シ得ルヲ原則トスルモノデアル。解リ易ク云ヘバ、吾人ハ原則トシテ、資本ヲ設定スルコトニヨリテ收益ヲ受ケ之ヲ購買力ニ振リ替フルコトヲ得ルノミナラズ、更ニ必要ヲ生ジタル場合ニハ何時タリトモ其資本ヲ撤廢スルコトニヨリテ資金ヲ回收シ購買力ヲ手中ニ集ムルコトガ出來ル。資

本ヲ有スルモノ強味ハ實ニ茲ニ在ルノデアル。

資本ハ放資原價ノ勘定金高デアルカラ、放資家ヨリ云ヘバ貸勘定ノ金高デアツテ、收益組織ヨリ云ヘバ借勘定ノ金高デアルコトヲ知ラネバナラス。而シテ此所謂貸勘定ナルモノハ、ソレニ對スル收益ヲ受ケ、且ツ資金ヲ回收シ得ル一種ノ權利デアルノハ勿論デアル。

先ヅ放資家ガ其資金ヲ收益物ニ放下シテ收益ノ組織ヲ立ツル場合ニ、放資家ト收益組織トノ間ニ如何ナル關係ヲ生ズルカト云フニ、此場合ニハ勿論其收益組織ハ放資家ノ權内ニ入ツテ來ルノハ明カデアルガ、併シ乍ラ更ニ一步ヲ進メテ放資家ト其權内ニ入り來レル收益組織トノ間ニハ如何ナル關係ヲ生ズルカト云フコトハ考ヘテ見ルト、吾人ハ其間ニ資金ヲ通ジテ一種ノ貸借關係ガ成立スルモノナルヲ認ムルコトガ出來ル。即チ放資家ガ其資金ヲ放下スルノハ、決シテ出シ放シニ支出スルノデハナク、ソレニヨリテ收益ヲ得ルノミナラズ、而モ必要ヲ生ジタル場合ニハ何時タリトモ其收益組織カラ資金ヲ回收スルコトヲ豫期ノ條件トシテ居ルノデアル。之ハ後デ取返スコトヲ豫期ノ條件トシテ利殖ノ爲ニ資金ヲ貸出シテ置クコト、結局ハ同ジ性質ノモノデアラチバナラス。故ニ放資家ガ其資金ヲ放下シタル場合ニ、資金ヲ通ジテ放資家ト收益組織トノ間ニ生ズル所ノ關係ハ、其性質上、正ニ貸借ノ關係デアルノハ明白デアル。勿論茲ニ謂フ所ノ貸借ナルモノハ、決シテ民法上ノ貸借ノ如キ狹キ意味ノモノデハナクシテ、回收ヲ豫期ノ條件トシテ支出シテ置クノハ總テ貸デアリスル貸ヲ負フモノハ總テ借デアルト云フ廣キ意味ノモノデアル。放資家ガ資金ヲ收益組織ニ放下シテ置クノハ、正ニ此廣キ意味ニ於ケル貸デアツテ、收益組織ハ其放下サレタル資金ノ額ヲ放資家カ

ヲ借りテ居ルノデアル。資本ハ放資家ト收益組織トノ間ニ生ズル所ノ此所謂資金ノ貸借關係ヲ表ハス勘定デアツテ、放資家ヨリ云ヘバ、貸勘定ヲ意味シ、收益組織ヨリ云ヘバ、借勘定ヲ意味スル。而シテ此貸勘定ニ對シテ受取り、借勘定ニ對シテ支拂ハル、所ノモノガ、即チ利子デアルノハ申ス迄モナイ。資本ノ有スル此貸借の性質ハ吾人ガ資本ヲ觀察スル上ニ於テ見遁スコトノ出來ナイ極メテ重要ナル性質デアツテ、之ヲ利子ノ觀念ト相對照シ、計理上ニ於ケル實際ノ計算ト相對照スルニ及ンデ、更ニ明白ニ認ムルコトヲ得ルノデアル。

五 資本ト利子

抑モ利子ナルモノハ、放資家——即チ資本家——ガ其資本ニ對スル收益トシテ受取ルモノデアルコトハ從來經濟學上ニ於テモ實際社會ニ於テモ一般ニ確認セラル、所デアル。而シテ又、利子ナル觀念ガ貸金借金ノ觀念ヲ離レテ成立スル能ハザル性質ノモノデアルコトモ從來何人ト雖モ疑ハザル所ノモノデアル。果シテ然ラバ、資本ノ觀念ト利子ノ觀念ト相對照スルコトニヨリテ吾人ハ右ニ説明セル資本ノ貸借の性質ヲ一層明カニ確認セザルヲ得ヌノデアル。即チ資本ハ放資家ヨリ云ヘバ貸勘定收益組織ヨリ云ヘバ借勘定デアツテ、此貸勘定ニ對シテ受取り、借勘定ニ對シテ支拂ハル、所ノモノガ即チ利子デアルト云フコトヲ看破スルコトニヨリテ、資本ノ觀念ト利子ノ觀念トハ正ニ相互ニ相照應シ相透徹スル。然ルニ若シモ吾人ガ從來經濟學上ニ於テ説明セラル、資本ノ觀念ト利子ノ觀念トヲ相對照スルナラバ、其處ニ到底相調和スルコトノ出來ナイ大ナル矛盾ガ横ツテ居ルコトヲ發見スルデアラウ。即チ利子ナルモノハ貸金ニ對シテ受取り、借金ニ對シテ支拂フモノデアルト云フ

過去現在ニ於ケル一切ノ事實ヲ無視セザル限リハ從來經濟學上ニ於テ説明セラレテ居ル資本ノ觀念ト利子ノ觀念トハ決シテ相容ル、能ハザル性質ノモノデアル。斯ル矛盾ハ余ノ放資原價説ニ從フトキハ、忽ニシテ消散シ明快ニ理論ニ於テ徹底シ、正確ニ過去現在ニ於ケル一切ノ事實ヲ包容シ得ルノデアル。

六 資本ト計理

凡ソ經濟學上ニ於ケル研究題目ノ大部分ハ、結局ノ所、計理上ノ計算問題ニ遭着セザルヲ得ヌ性質ノモノデアル。之ヲ以テ之等ノ研究ハ計理上ノ計算ヲ度外視スルヲ許サヌモノデアツテ、若シモ之ヲ度外視シ實數上ノ計算ト一致スル能ハザル如キ學說アラバ、ソハ申ス迄モナク誤レル學說デアラキバナラス。吾人ノ常ニ遺憾トシテ止マザル所ノモノハ、從來經濟學上ノ論議ガ常ニ計理ノ觀念ヲ無視シテ居ルコトデ、從來ノ資本論ト雖モ其通り、全ク計理ノ觀念ヲ無視シタルモノデアル。余ハ實數上ノ計算トスラ一致スル能ハザルガ如キ誤説ガ、何故ニ今日經濟學上ニ於テ堂々ト説明セラレテ居ルカヲ不思議ニ思フノデアル、

近時ニ於ケル經濟界ノ驚クベキ發達ハ、諸種ノ經濟的取引ヲシテ甚ダシク複雑ノ度ヲ加ヘシメ、從ツテ之ガ計算整理モ亦頗ル複雑ナル性質ノモノトナツテ來タノデアルガ、此複雑ナル計算整理ヲ行フノガ所謂簿記學ヤ計理學(會計學)ノ役目デアル。余ハ便宜上、普通ニ簿記學、計理學(會計學)ト呼バレテ居ルモノヲ一括シテ之ヲ計理學ト云ツテ置ク。此計理學ノ進歩ハ近年著シキモノデ、之ガ原理ト技術トヲ適用スルコトニヨリテ如何ニ複雑ナル經濟的取引ト雖モ、一絲亂レズ明瞭ニ正確

ニ而モ迅速ニ處理スルコトヲ得ルノハ何人モ承知シテ居ルコトデアル。併シ乍ラ斯ク發達シタル計理學ハ決シテ經濟學ノ理論ノ方面カラ發達シ來リタルモノデハナクシテ、其性質上全ク數理的ノ方面カラ發達シ來リタルベノデアルコトヲ注意セテバナラヌ。此數理的ノ方面ヨリ發達シ來リタル計理學ニ於ケル資本ノ取扱ト、經濟學者ガ古來議論ニ議論ヲ重テ 今日マデ發達セシメ來リタル資本ノ説明トヲ向キ合セテ見ルノハ實ニ興味アルコトデナクテハナラヌ。所ガ早速此興味アル對照ヲ行ツテ見ルト、從來ノ學說ハ一トシテ計理學上ノ資本ノ計算ト調和スルコトノ出來ルモノハナイ。何レモ根本的ノ數ノ性質其モノカラ全ク正負相容レナイト云フ性質ノモノバカリデアル。然ルニ茲ニ快心ニ堪ヘナイノハ、余ノ放資原價說ニヨルトキハ恰モ符節ヲ合スガ如ク、シツクリト相親和シ相抱合スルコトデアル。

即チ、先ヅ第一ニ計理上ニ於テ元入高ヲ資本トスルノハ、取リモ直サズ抽象的ノ放資原價ノ勘定金高ヲ資本トシテ取扱ツテ居ルノデアル。次ニ計理上ニ於テ資本ト資産トヲ明カニ區別シ、資本ヲ以テ少クトモ一會計期間ニ對シテハ一定ノ額ノモノトシ、特ニ増資若クハ減資ヲ行ハザル限リハ其一定ノ資本額ヲ以テ年々繼續スルノハ、取リモ直サズ資本ノ定額の永續的性質ト一致スルモノデアル。更ニ計理上ニ於テ資本ヲ負債トシテ取扱フノハ、取リモ直サズ資本ガ放資家ノ貸勘定、收益組織ノ借勘定デアルト云フコトニ一致スルモノデアル。即チ計理上ニ於テハ收益組織其モノ、計算ヲ行フノデアルカラ、資本ヲ收益組織ヨリ見テ負債トシテ取扱フノハ當然ノコトデアル。

之ヲ要スルニ余ノ放資原價說ハ計理上ノ資本ノ計算ト如何ナル點ニ於テモ相一致スルノハ右ニヨ

リテ明カデアルガ、之ヲ從來ノ諸學說ニ就テ見ルトキハ、一トシテ計理上ノ計算ニ附シ得ラル、モノハナイ。今日ノ進歩シタル經濟時代ニ於テハ實數ノ計算トスラ一致スル能ハザルガ如キ資本說ニ最早何人ト雖モ耳ヲ貸スベキモノデナイノハ明白デアツテ、單ニ此點ニ於テ從來ノ諸學說ハ當然其命脈ヲ絶タルベキ性質ノモノデアル。況ンヤ更ニ幾多ノ理論的實驗的ノ缺點ヲ有スルニ於テオヤ。以下項ヲ更メテ、從來ノ諸學說ガ如何ニ誤ツテ居ルカト云フコトヲ一々簡單ニ指摘シテ見ルコト、スル。(未完)